

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり														
基本施策	①つどい、つながり、学び合う社会教育の推進														
所管課	・社会教育課														
市長部局関係課	－														
現状と課題															
<p>生涯学習講座をはじめとする学習の機会を提供していますが、参加者数はコロナ禍の影響を受けて減少し、それ以降も増加していません。一方、市民意識調査の結果から、日頃から学習活動に取り組んでいる市民の割合は、コロナ禍においても減少することなく増加しており、個人での学習活動が進んでいると思われます。学んだ成果が個人の成長と自己実現だけにとどまらず、人とつながり、ともに活動し、地域社会のために活躍、貢献しようとする人材の育成につなげる必要があります。</p>															
今後の方向性・目指す姿															
<p>市民が興味・関心のある学習だけでなく、地域や社会の要請に応える必要課題に対応した学習の機会を提供します。また、市民がつどい、つながり、学び合うことのできる対話を通じた参加型学習を行うことで、仲間づくりと学習の成果を地域に活かすきっかけをつくります。特に若い世代が地域で活動することに自ら楽しさや喜びを見出し、地域に愛着と誇りを持って活躍する地域の創り手を育成する「くらしのふさとキャリア教育」を推進します。</p> <p>地域にある資源(モノ・コト・ヒト)に関する情報の基点となり、それらをつなぎ、必要な情報の提供、発信を行いながら、様々な主体との連携協働による取組を進めます。</p> <p>学びを通じて、人と人とのつながりや活動を生み出し、地域で活躍する人材を支援、育成し、持続可能で誰にとってもウェルビーイング(※1)な地域社会をめざします。</p>															
<table><tr><td>成果指標</td><td>現状値(令和6年度)</td><td>目標値(令和12年度)</td></tr><tr><td>対話型ミーティング事業をきっかけに結成された地域活動グループ数</td><td>2グループ</td><td>6グループ 現状値の3倍</td></tr><tr><td>中高生1人あたりの地域活動・ボランティア活動への参加回数</td><td>－</td><td>2回/人 複数回以上</td></tr><tr><td>倉吉市での生活に満足している20・30代の市民の割合の平均</td><td>58.2%</td><td>65% 現状値の約1.1倍</td></tr></table>				成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)	対話型ミーティング事業をきっかけに結成された地域活動グループ数	2グループ	6グループ 現状値の3倍	中高生1人あたりの地域活動・ボランティア活動への参加回数	－	2回/人 複数回以上	倉吉市での生活に満足している20・30代の市民の割合の平均	58.2%	65% 現状値の約1.1倍
成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)													
対話型ミーティング事業をきっかけに結成された地域活動グループ数	2グループ	6グループ 現状値の3倍													
中高生1人あたりの地域活動・ボランティア活動への参加回数	－	2回/人 複数回以上													
倉吉市での生活に満足している20・30代の市民の割合の平均	58.2%	65% 現状値の約1.1倍													
主要施策(個別施策・関連事業)															
<ul style="list-style-type: none">・市民ニーズと必要課題に対応した学習機会の提供<ul style="list-style-type: none">生涯学習講座の開催鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座の開催・地域の創り手として活躍する次世代育成<ul style="list-style-type: none">対話型ミーティング事業(参加型学習)の実施子ども会活動の支援とリーダー育成ハイスクールフォーラムの実施はたちのつどい実行委員会によるはたちのつどいの実施・地域資源の活用と学習活動に関する情報収集と発信<ul style="list-style-type: none">人材銀行事業の実施DX(※2)とインターネットの活用・社会教育人材や社会教育団体等の育成・支援と連携<ul style="list-style-type: none">社会教育委員協議会の開催社会教育士の養成と支援社会教育関係団体等との連携と活動支援															

・地域と学校との連携協働による活動の推進
放課後子ども教室の実施

※1 **ウェルビーイング**:多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

※2 **DX**:「デジタル・トランスフォーメーション」の略。デジタル技術を活用して、業務プロセスや組織自体を変革・効率化する取り組み。



生涯学習講座



ハイスクールフォーラム

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり
基本施策	②持続可能な地域を支えるコミュニティセンター(公民館)機能の充実
所管課	・社会教育課
市長部局関係課	・地域づくり支援課

現状と課題

コミュニティセンター13館は、令和3年4月に地区公民館から移行し、従来の社会教育施設としての役割に加え、地域の課題を住民が自分たちの問題として考え、住民同士が力を合わせて解決していく地域づくり活動を支援する拠点としての役割も併せ持つ施設となりました。

コミュニティセンター移行とほぼ同時期に新型コロナウイルス感染症が流行し、この間、事業を計画しても実施できない、地域の行事・イベントなどの開催や地域活動もできない状況が続き、対面による住民同士がつどい、ともに学ぶ機会は激減しました。コロナ禍後、コミュニティセンターの事業量の増加とともにコミュニティセンターの事業の参加者数、事業の企画段階から運営に関わる参画者数とも徐々に増加していますが、コロナ禍以前の水準には回復していません。

地域では、コロナ禍の影響により住民の地域に対する意識が変化し、コロナ禍以前に行われてきた様々な事業や活動の必要性を問う声の広がりや、地域や同じ地域に住む人に関心がなく関わろうとしない人が増えてきていることが危惧されています。また、地域団体の役員の固定化や高齢化をはじめ地域活動の担い手不足、次世代育成といった以前からの課題が、さらに深刻化してきていることが懸念されます。

今後の方向性・目指す姿

各地区コミュニティセンターでは、引き続き住民同士がつどい、つながり、学びあう身近な場として地域の特色や資源を活かしながら、住民のニーズに応え、地域の課題解決のために必要な学習機会の提供を行います。

学んだ成果を活かし、地域課題を自らの問題として住民同士がともに考え、力を合わせて解決しようとする地域づくり活動につながるよう、住民相互による学習や活動、交流の促進等の支援を行います。また、事業の企画運営において、地域住民を巻き込む仕掛けづくりや創意工夫を行い、地域への関心を高め、自分事として地域に関わり活躍する人材を育成します。地域の創り手となる人材の円滑な継承を図り持続可能な地域を支えます。

多様な主体と連携協働することで効果的な事業展開や活動の充実を図り、併せて地域の各種団体の活動支援を行います。特に地域学校協働活動の拠点としての役割を果たすため、「くらよしふるさとキャリア教育」の一環として、コミュニティ・スクール(※3)と連携し、地域全体で子どもたちの育成に取り組めます。

これらのコミュニティセンターの役割を果たしていくために、職員の研修の充実を図り、職員の資質向上に努めます。

コミュニティセンター活動に、幅広い世代の住民の理解や参加を得るために、SNS(※4)を活用した広報、情報発信の充実に努めます。施設利用や事業参加等において、住民の利便性を高めるためにDXを推進します。

成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
対話型ミーティング事業(参加型学習)の実施地区数	2地区	13地区 市内全地区実施
コミュニティセンター事業運営に参画した人の数(共催・連携事業を含む)	2,460人	3,670人 コロナ禍前の数値
コミュニティセンターを拠点に、地域づくりに参画する取組に満足している市民の割合	31.6%	35% 現状値の約1.1倍
地域のまちづくりに意見を反映させたり、活動に参加したいと思う市民の割合	29.1%	50% コロナ禍前の数値

主要施策(個別施策・関連事業)

- ・身近な学びの場、住民が集う地域の拠点としての活動の充実
住民のニーズや地域の特色を活かした各種講座、教室の実施
- ・住民相互による学習や活動、交流の促進
地域住民同士等による話し合いの機会の提供と支援(対話型ミーティング事業の実施)
- ・人づくり、地域づくりにつながる機能強化
住民自治の向上、市民活動の支援及び事業の推進
地域福祉のさらなる推進及び地域防災力の強化
同和教育をはじめとする人権に関する学習機会の提供
地域課題の解決に取り組む重点取組事業の実施
家庭教育支援事業と青少年育成事業の実施
地域スポーツの推進と同好会組織の育成
地域住民のデジタルデバйд(※5)解消とデジタルリテラシー(※6)向上の取組強化
- ・多様な主体との連携協働による効果的な事業展開と活動の充実
各種団体、関係機関などとの連携協働による事業の充実
地域の各種団体との連携と活動支援
コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動の実施
- ・コミュニティセンター職員の研修の充実と資質向上
館長研修、主事研修会の実施と各種研修機会による必要な知識と技術の習得
コミュニティセンター同士の連携、情報共有による研究活動
社会教育主事講習受講による社会教育士の取得
- ・DXの推進と情報発信の充実
事業実施や施設利用等におけるDXの推進
広報紙、ホームページの充実
SNS(※4)等を活用した広報

※3 コミュニティ・スクール:学校運営協議会を設置した学校。地域とともにある学校。

※4 SNS:インターネット上で人々が繋がり、文章、写真、動画などを共有しながらコミュニケーションを取るためのサービス。Facebook、X(旧Twitter)、Instagram、LINE、TikTokなどが代表的なもの。

※5 デジタルデバйд:インターネットや情報通信技術(ICT)を利用できる人とできない人の間に生じる情報格差

※6 デジタルリテラシー:パソコンやスマートフォンなどのデジタル技術を理解し、情報を適切に収集・判断・活用する能力のこと。



対話型ミーティング

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり							
基本施策	③「感動」を生み「知る喜び」を感じる博物館							
所管課	・博物館							
市長部局関係課	・文化財課・観光交流課							
現状と課題								
<p>倉吉博物館は、自然、歴史、芸術、民俗、産業など倉吉特有の文化資源を活用して、市民がいつでも利用できる「知の拠点」となることを目指し活動しています。そのため、これまで開館以来50年にわたって蓄積してきた博物館資料を基に展示活動や普及啓発活動を精力的に行ってきました。良質ではない文化資源を活用してオリジナルな活動を推進してきましたが、一方で、広報媒体等を使っての情報発信力が弱く、十分に市民に行き届いていません。</p>								
今後の方向性・目指す姿								
<p>博物館での作品鑑賞や学びを通じて驚きや感動、新たな発見による知る喜びなど市民の「知的好奇心」を満たすことのできる施設を目指すとともに新たな価値を創造できる人材の育成にも努めます。子どもから高齢者、障がい者まで誰一人残さず、自然や先人が遺してきた本物に触れることで豊かな心をもちウェルビーイングの向上を図ります。多くの市民がふるさと倉吉の遺産や偉人を知る機会を創り出し、郷土へ誇りと愛着を醸成していきます。令和7年開館の県立美術館とは、企画展の共催化やイベントの共同開催を企画し、積極的に連携を図っていきます。</p> <p>また、情報発信力の強化にも力を入れ、地元メディア、情報誌、市報、博物館HP等を使って発信に努めるとともに、友の会組織(博物館協会)の口コミなど有効な発信源を機能強化させていただきます。</p>								
<table><tr><td>成果指標</td><td>現状値(令和6年度)</td><td>目標値(令和12年度)</td></tr><tr><td>年間利用者数 (特別展・企画展以外)</td><td>7,844人</td><td>10,000人 約25%増</td></tr></table>			成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)	年間利用者数 (特別展・企画展以外)	7,844人	10,000人 約25%増
成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)						
年間利用者数 (特別展・企画展以外)	7,844人	10,000人 約25%増						
主要施策(個別施策・関連事業)								
<ul style="list-style-type: none">・倉吉特有の自然、歴史、芸術、民俗、産業などを核としてテーマ性のある展示の展開<ul style="list-style-type: none">「鳥取県野口1号墳出土須恵器」ほか国指定重要文化財を含む考古資料の展示「前田寛治」(洋画)、「菅楯彦」(日本画)、「大坂弘道」(木工芸)ほか美術作品の展示全国シェアを誇る「千歯扱き」や緻密な絵紉きで有名な「倉吉紉」など産業資料の展示倉吉自然科学研究会との共同企画による「夏休み自然科学展」の開催「倉吉市立図書館」、「倉吉淀屋」など周辺施設と連携した館外展示活動の展開「鳥取県立博物館」、「鳥取県立公文書館」などと共催による企画展の開催学芸員の調査研究に基づく企画展の開催・市展・創作文華展の開催など市民の創作活動や展示発表への支援<ul style="list-style-type: none">「倉吉市美術展覧会」、「倉吉市創作文華展」の開催展示発表のための貸館スペース並びに学術研究活動のための研修室の貸出・倉吉ゆかりの作家の顕彰とまちに文化の潤いをもたらす全国に誇れる美術賞の開催<ul style="list-style-type: none">「前田寛治大賞展」「菅楯彦大賞展」「倉吉：緑の彫刻賞」の継続人間国宝 大坂弘道」の顕彰、郷土作家の顕彰・市民が地域を理解し、市民の学習意欲に応えられる教育普及活動の実施								

倉吉特有の自然、歴史、芸術、産業などをテーマにした「倉吉博物館講座」の開催

「自然ウォッチング」など自然観察会の開催

・博物館資料の保全と活用

博物館資料のデジタルアーカイブ化の促進

市報、ホームページ、地元新聞紙面他、あらゆる媒体を通じた情報発信

展示や教育普及活動へのICTの活用の推進

・「鳥取県立美術館」との各種事業の有機的な連携

「鳥取県立美術館」との各種事業の共催

「鳥取県ミュージアム・ネットワーク」との連携

「鳥取県アート・ミュージアム連携協議会」との共同企画展等開催



人間国宝 大坂弘道《紫檀木画箱》

＊正倉院宝物模造品



前田寛治大賞展(東京高島屋会場)



土天神 資料の特性に合わせた館外展示



打吹山の自然を活用した体験学習

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり
基本施策	④豊かな心を育む図書館の推進
所管課	・図書館
市長部局関係課	－

現状と課題

市民の暮らしに役立つ情報の収集・課題解決のためのニーズは常に多様化・高度化し変化しています。コロナ禍以降、一人当たりの来館回数や貸出冊数が減少したままであり、今後も多様なニーズや知的要求に応えるため、より豊かな蔵書、相談業務やサービス・事業の充実、職員のスキルアップが必要です。

今後の方向性・目指す姿

市民が気軽に利用でき、暮らしに役立つ図書館活動を推進するとともに、多様化・高度化する市民の知的要求に的確に応えるため、資料・情報の収集・提供に努め、市民の豊かな心を育みます。

社会教育の拠点として、子どもや若者、社会人、高齢者など、年齢を問わず生涯を通じて行う学びを支援します。また、倉吉市を知ることができる郷土資料(計画・概要・調査報告・年鑑など)を網羅的に収集し、山上憶良短歌募集事業の継続など図書館機能を活用した「くらよしふるさとキャリア教育」を実施します。

多様化・高度化した市民のニーズに応えるべく、子育て応援、ヤングアダルト(中高生)サービス、高齢者サービス、障がい者サービスなどそれぞれのニーズに配慮し、また、レファレンスサービス(調べ物相談)、ビジネス支援を行うなど、全ての市民にとって役に立つ図書館を目指します。また、倉吉市障がい者計画に内包した「倉吉市視覚障がい者等の読書環境の整備推進計画」に基づき、障がい福祉部門と連携を図りながら読書バリアフリーを推進します。さらに、家庭や職場・学校とは別の「サードプレイス(第三の居場所)」として、誰一人取り残さない図書館をめざします。

図書館におけるDXを推進するとともに、デジタル社会に対応した読書環境の整備の検討、デジタル技術の活用や情報リテラシーの向上のための情報提供に努めます。

倉吉パークスクエアの主要施設で、学習機能を持つ倉吉交流プラザにおいては、さまざまな年齢層の方の交流拠点の場を提供します。

市内外から多くの親子連れで賑わい、幅広い年齢層の子どもたちが楽しく遊ぶことのできる遊具施設や広場で、安全・安心な「遊べる場・交流の場」を提供します。

成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
幼児・児童一人当たり貸出冊数	20.1冊	22.7冊 コロナ前(令和元年)の数値
一人当たり個人貸出冊数	5.4冊	6.4冊 コロナ前(令和元年)の数値
アクセシブルな書籍等(※7)所蔵点数	3,162点	3,500点 1年度55点程度増
山上憶良短歌賞応募数	3,071人	5,000人 全国公募年の平均値超え
倉吉交流プラザ利用率	65%	67% 第3期計画期間中の伸び率

※7 アクセシブルな書籍等:点字図書、拡大図書、音訳図書、さわる絵本、LLブック、布の絵本、デージー図書等の視覚障がい者等が利用しやすい書籍等。

主要施策(個別施策・関連事業)

・子どもの読書活動の推進

ブックスタート事業の継続・講演会・ワークショップ・よみきかせ講座などの実施
児童サービス(おはなしかい・おでかけおはなし隊)の提供
学校図書館の支援
図書館機能を活用したくらしのよさとキャリア教育(郷土資料の収集、見学・職場体験受入れ、
山上憶良短歌賞公募(短歌指導、憶良の学習)、企画展示)
ヤングアダルト(中高生)向けサービスの提供

・生涯学習としての読書活動の推進

幅広い図書館資料の収集
最新で豊かな蔵書構成による図書館資料の提供の充実
充実したレファレンスサービス(調べ物相談)の実施
鳥取短期大学・鳥取看護大学・厚生病院との連携による読書活動の推進
各地区コミュニティセンターとの連携による読書活動の推進
県立美術館との連携による読書活動の推進

・対象者のニーズに応じたサービスの提供

子育て世代の支援
進学就職応援コーナーの充実
農業支援・ビジネス支援事業の推進
高齢者が元気であり続けるサービスの推進
図書館利用に支障のある人へのサービスの推進(読書バリアフリーの推進)
各種相談会の実施

・図書館及び倉吉交流プラザにおけるDXの推進

電子書籍サービス導入の検討
施設予約サービスの効果的な運用
デジタル技術の活用や情報リテラシーの向上のための情報提供

・図書館ボランティアや各種機関との連携

・山上憶良短歌募集事業の継続

・文芸団体への支援

・倉吉交流プラザ、倉吉パークスクエア内広場の利用促進



倉吉交流プラザ 倉吉パークスクエア



おはなしかい

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり										
基本施策	⑤地域とともにある学校づくりの推進										
所管課	・学校教育課・社会教育課										
市長部局関係課	－										
現状と課題・目指す姿											
<p>各学校では保護者や地域のみなさんの力を借りながら地域の特色を生かしたふるさと学習が展開され、各学校はウェブページ等を活用して情報発信に努めています。学校運営協議会(※8)が運営主体となる「教育を考える会」は、子どもを中心に家庭・学校・地域が連携協働していることを象徴する特色ある取組です。一方、児童生徒が地域を活性化する学習活動の推進、新たな地域教材の発掘や地域人材の学校教育活動への参画が望まれます。また、学校運営協議会では学校と委員が目指す子どもの姿を熟議し共有することを基盤とした体制づくりが必要です。</p>											
今後の方向性											
<p>本市全小中学校がコミュニティ・スクール(※9)である良さを生かし、学校と地域が連携・協働し、地域の宝である子ども達を育てる「くらよしふるさとキャリア教育」を推進します。その原動力が各校の学校運営協議会です。ふるさと学習やキャリア教育が子どもたちにとってよりよい学びになるためには、学校と地域が目的を同じくすることが大切です。そのために、学校運営協議会で「目指す子どもの姿」を熟議した上で、様々な学校教育活動を計画、実行します。</p> <p>また、学校評価において保護者や地域住民などの意向を踏まえるとともに、評価結果の公表をはじめ、学校が教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供します。こうした取り組みを通して、保護者や地域住民の意向を把握し、学校運営に反映させたり、保護者や地域住民の参画を得た教育活動を展開したりするなど、「開かれた学校づくり」を一層推進します。</p>											
<table><tr><th>成果指標</th><th>現状値(令和7年度)</th><th>目標値(令和12年度)</th></tr><tr><td>学校運営協議会において、「目指す子どもの姿」を熟議し決定した学校の割合</td><td>－</td><td>100%</td></tr><tr><td>学校運営協議会において、「目指す子どもの姿」の達成に向けて学校・家庭・地域が協力したと肯定的に回答した学校の割合</td><td>－</td><td>100%</td></tr></table>			成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)	学校運営協議会において、「目指す子どもの姿」を熟議し決定した学校の割合	－	100%	学校運営協議会において、「目指す子どもの姿」の達成に向けて学校・家庭・地域が協力したと肯定的に回答した学校の割合	－	100%
成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)									
学校運営協議会において、「目指す子どもの姿」を熟議し決定した学校の割合	－	100%									
学校運営協議会において、「目指す子どもの姿」の達成に向けて学校・家庭・地域が協力したと肯定的に回答した学校の割合	－	100%									
主要施策(個別施策・関連事業)											
<p>・保護者や地域住民の願いを反映した学校づくり</p> <p>学校運営協議会の活性化</p> <p>「学校評価アンケート」の実施と結果の分析・公表</p> <p>倉吉市小中学校一斉公開の継続実施</p> <p>HPなどを活用した情報発信の推進</p>											
<p>※8 学校運営協議会:保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と連携・協働して特色ある学校づくりを進めるために協議する組織。倉吉市では令和7年度まで「地域学校委員会」と称していた。</p> <p>※9 コミュニティ・スクール:学校運営協議会を設置した学校。地域とともにある学校。</p>											

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり							
基本施策	⑥家庭教育の充実							
所管課	・社会教育課・学校教育課							
市長部局関係課	・こども家庭センター・こども支援課							
現状と課題								
<p>家庭は、子どもが基本的な生活習慣を身に付け、人間性を培い、心身ともに健やかに成長するための大切な場ですが、現在、家庭における過干渉や虐待などの子育ての問題が社会の問題となっています。そして、相談する相手もなく、孤立した状態で子育てをしている家庭がある中、地域や学校などとのつながりの中で家庭教育が行われるような支援のネットワークが求められています。</p>								
今後の方向性・目指す姿								
<p>子どもたちの将来に渡って必要となる基本的な生活習慣や自立心、社会性などを育むための情報提供や学習支援を行います。くらしよふさとキャリア教育を推進し、家庭・学校・地域が連携・協働して子どもたちの心身の成長を支える体制を構築することで、直接的・間接的に保護者も支えていきます。子育てについて悩みや不安などを抱える保護者に対しては、倉吉市健康福祉部などと連携し、個々の家庭が置かれている状況や家庭環境に応じた支援を進めます。</p>								
<table><tr><th>成果指標</th><th>現状値(令和7年度)</th><th>目標値(令和12年度)</th></tr><tr><td>「あなたは、子育てに不安を感じていますか。」に「不安でない」「どちらかと言えば不安でない」と回答した保護者の割合(倉吉市民意識調査)</td><td>40%</td><td>令和7年度を上回る</td></tr></table>			成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)	「あなたは、子育てに不安を感じていますか。」に「不安でない」「どちらかと言えば不安でない」と回答した保護者の割合(倉吉市民意識調査)	40%	令和7年度を上回る
成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)						
「あなたは、子育てに不安を感じていますか。」に「不安でない」「どちらかと言えば不安でない」と回答した保護者の割合(倉吉市民意識調査)	40%	令和7年度を上回る						
主要施策(個別施策・関連事業)								
<ul style="list-style-type: none">・「子どもたちを育む愛♥言葉」の啓発・PTA連合会との共催による研修会などの実施・地域未来塾(※10)を通した家庭学習の支援・小学校区別「教育を考える会」での地域ぐるみで取り組む子育てのあり方啓発・スクールソーシャルワーカー活用による家庭支援・健康福祉部と連携した保護者支援(5歳児すこやか相談)・関係機関と連携した系統的な子育て相談体制の確立と家庭教育支援事業の実施								
<p>※10 地域未来塾: 平成29年度から実施している「地域未来塾」では、中学生の学習を助けたり学習習慣を身につけさせたりするなど、直接中学生に働きかけることを通して、よりきめ細かな家庭教育支援を行っている。</p>								

はぐく あいことば

「子どもたちを育む愛♥言葉」～大人が変わると子どもも変わる～

＊保護者(大人)が、わかっているけれども日常生活で実践しにくいことを、おぼえやすく、やってみようと思えることを5つの愛言葉にしました。

子どもたちのすこやかな成長を願って、家庭、そして学校・地域も一緒になって、この愛言葉を合言葉に取り組んでいきましょう。

- ①話そう 聴こう 笑い合おう（グッド・コミュニケーション）
- ②見守ろう 認めよう ほめよう（主体性を育む）
- ③やってみよう 学んでみよう おもしろがろう（一緒にワクワク体験）
- ④選ぼう 決めよう 守ろう（ネットとの付き合い方）
- ⑤関わろう つながろう 共に育てよう（学校・家庭・地域で共に育てる）

教育目標	2 主体性を培い、創造性を養う学校教育の推進
基本施策	⑦学力向上の推進
所管課	・学校教育課
市長部局関係課	・情報政策課

現状と課題

児童生徒が変化の激しい予測不可能な社会の中で将来を切り拓く力を付けるため「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」が実現された授業改善を進めてきました。一人一台タブレット端末を活用し、学習における教育DX(※11)も進んでいます。児童生徒が主体的に学ぶ授業へ、という授業観の転換が図られる一方で、教員による説明を中心に進められる授業や学び方の型だけにフォーカスされた授業も散見されます。全国学力・学習状況調査の結果は、ここ数年小中学校ともに全国平均と同等もしくは低い結果です。分かりやすさと新しい学力観への対応が両立された授業づくりが急務であると共に、学力と相関関係がある「非認知能力」(※12)の育成を意識した取組が必要です。

今後の方向性・目指す姿

「自ら課題を設定し、多様な人々と協働しながら解決策を生み出す力」「人間だからこそできる力」「主体的に学び続ける力」を育成することに努めます。そのために、各教科ならではのおもしろさや学ぶ価値を児童生徒が味わえ、仲間と共に学び合う「協働的な学び」が実現された「学習者主体の授業」を目指します。授業内外で効果的にデジタル教科書やタブレット端末等を活用した「個別最適な学び」を進めます。また、児童生徒の学びを支える非認知能力の育成を学校における全ての教育活動で意識し、取り組みます。

成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)
教科の正答率 (全国学力学習状況調査)	小6国 66%【全国66.8%】 算 57%【全国58.0%】 中3国 50%【全国54.3%】 数 42%【全国48.3%】	全国平均以上
「主体的・対話的で深い学び」の値 (とっとり学力学習状況調査)	小6 3.6 中3 3.7	令和7年度以上
「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査)	小6 76.5%【全国80.3%】 中3 78.4%【全国77.7%】	全国平均以上
「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査)	小6 90.7%【全国91.9%】 中3 92.0%【全国91.9%】	全国平均以上
「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査)	小6 81.6%【全国83.4%】 中3 83.9%【全国79.3%】	全国平均以上
非認知能力(※12)のうち 「自己効力感」の値 (とっとり学力学習状況調査)	小6 3.3 中3 3.2	令和7年度以上

主要施策(個別施策・関連事業)

- ・授業改革・改善推進
 - 教員の資質・能力向上研修
 - 学習者主体の授業づくり推進
 - 学習に関わる人的支援(学校図書館司書、情報教育指導員、外国語指導助手(ALT))
 - 「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の更なる推進
 - 授業研究会等での指導・助言
 - タブレット端末、デジタル教科書活用推進
- ・小中連携教育の推進
 - 中学校区別合同研修会の開催
 - 教科の専門性を生かした学校種をまたいだ授業実施
- ・小学校教科担任制の導入促進活用
 - 小学校高学年および中学年における教科担任制実施
- ・学力調査(とっとり学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査)実施、分析結果公表
 - 学力に関する結果分析
 - 非認知能力(※12)に関する結果分析

※11教育DX:「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」を教育分野に適用し、デジタル技術を活用して、学習方法や教育の質、教職員の働き方を根本から変革する取り組み。

※12 非認知能力:テストや検査では評価や測定ができない、意欲や社会性に関わる力です。例として、やりぬく力、創造性、探求心、協調性、コミュニケーション能力などがあげられる。

教育目標	2 主体性を培い、創造性を養う学校教育の推進													
基本施策	⑧特別支援教育の充実													
所管課	・学校教育課													
市長部局関係課	・こども家庭センター・こども支援課・人権政策課													
現状と課題														
支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、校内支援体制の充実に取り組んでいます。合理的配慮(※13)への理解が進み、学校では誰もが安心して過ごせるハード面、ソフト面の環境調整に努めています。特別支援学級や通級指導教室では、個別の支援計画を活用しながら、個々の児童生徒の課題を克服するための学習や対応をしています。特別支援学級のみならず通常学級における個別対応と小学校1年生での読む能力の獲得のための支援を、学校、家庭、関係機関が一層連携、協力し進める必要があります。														
今後の方向性・目指す姿														
全ての人がお互いの権利を尊重し、支え合う「共生社会」の実現にむけて、インクルーシブ教育システム(※14)の構築に努めます。その一環として児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育支援を行うための就学相談・教育相談の充実、個々の発達と自立に向けた学校体制づくり、特別支援教育におけるICT活用推進にも努めます。また、ユニバーサル・デザインの視点(※15)を生かした指導・支援を進めます。生涯に渡って必要となる読みの力をつけるため、全小学校1年生を対象に「多層指導モデルMIM(※16)」を活用し、読みに対する早期支援を行います。														
<table><tr><th>成果指標</th><th>現状値(令和7年度)</th><th>目標値(令和12年度)</th></tr><tr><td>ユニバーサル・デザインの視点(※15)で指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を十分にした学校の割合 (全国学力・学習状況調査学校質問紙)</td><td>小学校 50% 中学校 60%</td><td>小学校 100% 中学校 100%</td></tr><tr><td>流ちょうにひらがなを読むことができる1年生児童の割合 (多層指導モデルMIM)(※16)</td><td>71% ※R4～R6の平均値</td><td>90%</td></tr><tr><td>個別の支援計画を作成している児童生徒のうち年度の目標が達成された割合 (行政アンケート)</td><td>—</td><td>100%</td></tr></table>			成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)	ユニバーサル・デザインの視点(※15)で指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を十分にした学校の割合 (全国学力・学習状況調査学校質問紙)	小学校 50% 中学校 60%	小学校 100% 中学校 100%	流ちょうにひらがなを読むことができる1年生児童の割合 (多層指導モデルMIM)(※16)	71% ※R4～R6の平均値	90%	個別の支援計画を作成している児童生徒のうち年度の目標が達成された割合 (行政アンケート)	—	100%
成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)												
ユニバーサル・デザインの視点(※15)で指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を十分にした学校の割合 (全国学力・学習状況調査学校質問紙)	小学校 50% 中学校 60%	小学校 100% 中学校 100%												
流ちょうにひらがなを読むことができる1年生児童の割合 (多層指導モデルMIM)(※16)	71% ※R4～R6の平均値	90%												
個別の支援計画を作成している児童生徒のうち年度の目標が達成された割合 (行政アンケート)	—	100%												
主要施策(個別施策・関連事業)														
・支援を必要とする児童生徒を支える学校体制づくり ユニバーサルな視点(※15)での学校・学級経営の推進 多層指導モデルMIM(※16)を活用した、ひらがなの読みに対する早期支援 特別支援教育主任者研修会・経験年数が短い特別支援学級担任など研修会の実施 特別支援教育に関わる人的支援(特別支援アドバイザー、元気はつらつ教員補助員の配置) 「個別の支援計画」及び「個別の指導計画」の活用 倉吉市就学支援委員会の開催による適正就学推進、障がいの種別に応じた学級の開設 通級指導教室「ことばの教室」(言語障がい)、「まなびの教室」「学びの教室」(発達障がい)、「つくし学級」(院内学級)の開設と指導の充実 「まなびの教室」「学びの教室」の巡回指導の実施 車いすなど物的環境面の充実 特別支援教育におけるICTの活用推進 ・生涯にわたる一貫した支援のための福祉部局との連携 家庭、保育所・認定こども園、学校、福祉、医療との連携推進														

※13 **合理的配慮**:障がいのある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うこと。

※14 **インクルーシブ教育システム**:障がいのある者となない者が共に学ぶ仕組み。「障がい者の権利に関する条約(第24条)」に規定されている。その実現のためには、「合理的配慮」(学校側が支援を要する児童・生徒に対して必要な変更・調整を可能な限り行うこと)が必要となる。

※15 **ユニバーサル・デザインの視点**:特別な誰かにではなく、誰にでも使えるという視点。配慮を要する児童に「ないと困る支援」は、他の児童生徒にも「有効な支援」となるという考え方。

※16 **多層指導モデルMIM**:通常の学級において異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供する指導方法のこと。子どものニーズの把握は、定期的なアセスメント(MIM-PM)を毎月行い確認している。

教育目標	2 主体性を培い、創造性を養う学校教育の推進										
基本施策	⑨幼児教育の充実										
所管課	・学校教育課										
市長部局関係課	・こども家庭センター・こども支援課										
現状と課題											
幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るカリキュラムはすべての小学校区で作成されています。しかし、連携体制が確立してきている一方で、子ども同士の交流や参観、連絡のみにとどまっている現状があります。幼保小の教員同士が対話を深め、自らの指導方法や指導内容を評価・見直すことで、幼保小それぞれの教育をより充実させる必要があります。											
今後の方向性・目指す姿											
生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期である5歳児から小1年生の「架け橋期」(2年間)に育ちや学びをつないでいくことが大切であり、そのための「架け橋期カリキュラム」(※18)の編成と活用を推進していきます。あわせて、保育所・認定こども園・小学校・福祉部局との一層の連携・協働を図ります。											
<table><tr><th>成果指標</th><th>現状値(令和7年度)</th><th>目標値(令和12年度)</th></tr><tr><td>「架け橋期カリキュラム(※17)の見直しや改善について校区で検討がされた」と回答した割合</td><td>園 - % 小 - %</td><td>園 100% 小 100%</td></tr><tr><td>「架け橋期カリキュラム」(※17)を活用し「架け橋期」を意識した保育・教育の実施が「効果的だった」と肯定的に回答した割合</td><td>園 ー% 小 ー%</td><td>園 60% 小 60%</td></tr></table>			成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)	「架け橋期カリキュラム(※17)の見直しや改善について校区で検討がされた」と回答した割合	園 - % 小 - %	園 100% 小 100%	「架け橋期カリキュラム」(※17)を活用し「架け橋期」を意識した保育・教育の実施が「効果的だった」と肯定的に回答した割合	園 ー% 小 ー%	園 60% 小 60%
成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)									
「架け橋期カリキュラム(※17)の見直しや改善について校区で検討がされた」と回答した割合	園 - % 小 - %	園 100% 小 100%									
「架け橋期カリキュラム」(※17)を活用し「架け橋期」を意識した保育・教育の実施が「効果的だった」と肯定的に回答した割合	園 ー% 小 ー%	園 60% 小 60%									
主要施策(個別施策・関連事業)											
・小学校区毎の「架け橋期カリキュラム」(※17)の作成・実施・改善 ・「倉吉市幼児教育研究会(※18)」の開催 ・幼保小連携に係る好事例の紹介											
※17 架け橋期カリキュラム: 幼保小が協働して、期待する子ども像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの ※18 倉吉市幼児教育研究会: 市内の保育所長、認定こども園長、小学校長が一堂に会し、保・子・小の連携を推進していくための協議を行うための会。											

教育目標	3 安心・安全な教育環境の充実	
基本施策	⑩安心して教育を受ける機会の推進	
所管課	・学校教育課・教育総務課	
市長部局関係課	・人権政策課・防災安全課	
現状と課題		
<p>学校を取り巻く環境が激しく変化する中で、学力・体力の向上や災害時・防犯を含めた安全確保の取り組み、不登校やいじめなどに対する対応など、学校の抱える課題の多様化・複雑化が進んでいます。</p> <p>また、保護者の経済的な理由によって小・中学校への就学が困難な場合、継続した就学支援が必要です。</p>		
今後の方向性・目指す姿		
<p>客観的なデータをもとに、学級集団や子ども一人一人の状況を理解し、必要な支援や体制を検討・構築します。</p> <p>教員一人一人の意識改革を図る中で、教員が子どもたちと向き合う時間を十分に確保し、きめ細やかな指導ができるよう努めるため、外部人材の活用を積極的に進めます。</p> <p>また、保護者が安心して子どもを就学させられるよう経済的支援を行い、義務教育の円滑な実施を推進します。その他、高校生などへの助成事業並びに大学、短期大学などに修学する者に対して、奨学資金を貸与し、もって有用な人材を育成することに努めます。</p> <p>さらに、教育振興基金の運用益を活用し、スポーツ・文化活動の振興とともに、次代を担う人材の育成を図っていきます。</p>		
成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)
とっとり学力学習状況調査(※19)「やさしい言葉づかいをしている」	小6:86.8% 中3:90.1%	令和7年度以上
「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童生徒(全国学力学習状況調査)	小6:71.9%【全国70.6%】 中3:79.3%【全国73.2%】	全国平均以上
児童生徒一人あたりの教職員数(5月1日児童生徒数及び教職員数)	0.14人	令和7年度以上
主要施策(個別施策・関連事業)		
<ul style="list-style-type: none">・教員がきめ細やかな指導を行うための対策<ul style="list-style-type: none">人的配置(元気はつらつ教員補助員等)客観的なデータの活用による学級集団の理解(教育心理検査の実施と活用)・相談体制の充実<ul style="list-style-type: none">ステップルーム支援員、スクールソーシャルワーカーの配置・児童生徒の居場所づくり<ul style="list-style-type: none">校内サポート教室設置、中部こども支援センター運営協力・倉吉モデル中学校統一制服の検討・導入・就学援助事業などの周知と適切な執行・倉吉市教育振興基金の活用・奨学金制度の実施・防災・防犯対策の強化・学校防災体制の強化		
※19 とっとり学力・学習状況調査:「一人一人の学力の伸び」「規範意識」「学習方略」「非認知能力」等を測定する調査		

教育目標	3 安心・安全な教育環境の充実
基本施策	①組織的・機能的な学校経営
所管課	・学校教育課・社会教育課
市長部局関係課	・職員課
現状と課題	
<p>学校の抱える課題を迅速かつ的確に解決するためには、教員の個別的な対応では限界があり、学校を挙げて組織的に対応する必要があります。また、各教員が適切な役割分担と協力のもとに校務を効率的に処理する必要があります。</p>	
今後の方向性・目指す姿	
<p>校長のリーダーシップのもと、学校の抱える課題に対して組織的、機動的に対応する体制を整備するとともに、校務のDX化などによる教職員の業務負担の軽減と教員一人一人の意識改革を図り、教育課題が効率的に解決できるよう努めます。</p> <p>また、本市独自の学校計画訪問や研修会などを開催し、教員の資質・能力の向上などに努めます。</p> <p>さらに、学校における働き方改革については、教職員の心身の健康保持に努めるとともに、一人一人の子どもたちの指導に専念できる環境を整えるなど、教育の質の向上を図ることを目的として策定した「業務量管理・健康確保措置実施計画」を受け、長時間勤務者の解消、時間外業務削減のための取り組みを進めます。</p>	
主要施策(個別施策・関連事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉市教育委員会事務局組織の体制強化 くらしよふさとキャリア教育等推進のための各課・館の連携強化 ・各校の教育目標達成のための人的配置の実現 鳥取県教育委員会との連携 倉吉市独自の人的配置 ・教職員の資質・能力などの向上 倉吉市教育委員会が実施する学校計画訪問での教育委員などによる授業参観と指導助言など キャリアに応じた職能研修会の実施(講師研修会、初任者研修会、中堅教員研修会、管理職研修会、会計年度任用職員研修会などの開催) ・教職員の働き方に係る計画の策定と見直し 業務量管理・健康確保措置実施計画、倉吉市教育委員会ハラスメント防止要綱、 倉吉市小中学校情報セキュリティポリシー等 ・学校における教育DXの一層の推進 ・共同学校事務室の一層の活用 ・中学校部活動への地域の関わり推進 	

教育目標	3 安心・安全な教育環境の充実
基本施策	⑫学校施設の整備充実
所管課	・教育総務課・学校給食センター
市長部局関係課	・総務課・防災安全課・情報政策課・建築住宅課・農林課

現状と課題

温暖化が進むなか、普通教室の空調設備設置は全ての学校で完了しているが、特別教室については設置できていない教室があります。また、ホワイトボードについても黒板のままの学校があります。健康面・衛生面からも年次的に環境整備を進めていく必要があります。

学校施設は建築から30年以上の施設が全体の約8割を占めており、外壁の老朽化対策や雨漏り対策、グラウンド整備、プール修繕など適正な管理により安全で快適な教育環境を維持していく必要があります。

学校給食センターにおいては、平成5年の開設から32年が経過し、老朽化した施設を整備し、設備を更新する必要があります。

GIGAスクール構想第2期を迎え、小中学校タブレット端末の統一化による利便性の向上を図るとともに、端末及び周辺機器の計画的な更新、教育DXの推進に係る適切なネットワーク整備を行う必要があります。

今後の方向性・目指す姿

教育環境の整備充実をはかるため、「倉吉市教育施設長寿命化計画(令和7年3月改訂)」に基づき、計画的な老朽化対策を進めます。

設備の点検、修繕等を適時、適切に実施するとともに、エアコン整備・更新やホワイトボード化、バリアフリー化など環境への配慮や質的な改善に取り組みます。

学校給食センターは、子どもたちに安全で安心な学校給食を提供し続けるため、施設や設備の適正な維持管理に努めます。

学校プール施設については、市営温水プールや民間プール施設を使用した試行結果を検証し、今後の水泳授業のあり方について検討委員会を立ち上げ方針を示していきます。

児童・生徒、教職員の1人1台端末の整備に伴い、大型提示装置の更新及び遮光カーテンの設置など教室環境の整備、学校内のWi-Fiエリアの充実を図ります。

また、学校施設は災害時において地域住民の避難所としても利用されるため、関係各課と連携し、防災機能強化等に努めます。

成果指標	建物区分	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
空調整備設置率(教室※):大規模改造(質的整備)	小学校	91%	100%
	中学校	80%	100%
ホワイトボード設置率	小学校	65%	100%
	中学校	57%	100%

※教室とは普通教室及び特別教室(理科室・家庭科室等)をいい、現状値及び目標値は集会室・相談室等を除いた値

主要施策(個別施策・関連事業)

- ・学校施設の適正な維持管理
 - 外壁塗装や屋上防水改修
 - 防犯カメラの増設等による防犯対策の強化
 - 空調設備の設置及び更新
 - 学校周辺の倒木対策及び樹木等の環境整備
 - グラウンド及び駐車場の整備
 - 水泳授業のあり方検討
- ・ICT機器類の計画的な整備・更新
 - 児童生徒1人1台端末の整備
 - 周辺機器の設置・更新
- ・学校給食センター施設及び設備の適正な維持管理
 - ボイラー設備の全面改修
 - 照明器具のLED化

教育目標	3 安心・安全な教育環境の充実
基本施策	⑬学校の適正配置の推進
所管課	・学校教育課
市長部局関係課	—
現状と課題	
<p>倉吉市教育委員会では、子どもたちが望ましい成長をするための学校の適正配置について、平成24年2月に倉吉市学校教育審議会から答申を受けて以来、各地区において説明会を重ねてきました。平成28年4月に山守小学校と関金小学校が統合し、新関金小学校、令和5年4月に成徳小学校と灘手小学校が統合し打吹小学校、そして令和6年4月には北谷小学校と高城小学校が統合し久米小学校と、小鴨小学校と上小鴨小学校が統合し新小鴨小学校が開校し、各学校とも順調に学校運営がなされています。</p> <p>少子化の進行を踏まえ、10年後、20年後の小・中学校のより良いあり方について検討を始めるために、現在学校教育審議会にて現在に至るまでの適正配置の歩みについて学びを進めていただいているところです。</p>	
今後の方向性・目指す姿	
<p>今後は児童生徒数の推移を見ながら、将来を見据えた小・中学校の適正な学校規模や教育環境のあり方について、検討していく必要があります。また、学校と地域とのつながりは深く、地域の皆様からは学校教育活動や見守り活動など支援していただいていることから、行政と地域、地域と地域との相互理解を深め、市議会や関係者に説明の上、適正配置の協議を進めていくことが必要です。</p>	
主要施策(個別施策・関連事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育審議会等における適正配置の方向性検討 ・適正配置協議会、各地域説明会の開催 ・各地域、適正配置修正案(複数案)についての意向(方向性)を決定 ・各地域での意向(方向性)の取りまとめ及び適正配置協議会での調整 ・適正配置の段階的な準備(準備委員会の立ち上げ) ・適正配置の段階的な実施 	

教育目標	3 安心・安全な教育環境の充実
基本施策	⑭社会教育施設・体育施設等の整備充実
所管課	・社会教育課・博物館・図書館
市長部局関係課	・総務課・建築住宅課・管理計画課
現状と課題	
<p>社会教育施設・体育施設等は、市民の学習活動や文化・スポーツ活動を支援する拠点、また交流の場として重要な役割を担っています。しかし、本市の社会教育施設・体育施設等は老朽化が進んでおり、老朽化に伴う危険・不良箇所を改善し、施設の安全性を確保しながら、それぞれの求められる役割や機能を果たしていく必要があります。</p> <p>社会教育施設のうち博物館は、建物の耐震化対策やトイレの洋式化、空調設備(博物館棟、収蔵庫棟のみ)・照明設備改修等の整備を進めてきました。築30年を経過した収蔵庫は屋根・外壁の劣化が著しく改修工事が急務です。歴史民俗資料館の空調設備の改修も今後予想される国指定資料の収蔵環境を整えるためにも必要です。倉吉パークスクエア・倉吉交流プラザにおいては、開設から25年が経過し、施設の長寿命化のための大規模改修時期となっています。</p> <p>社会体育施設等は、建設から数十年経過し、改修や更新が必要な時期になってきます。更に、誰もが使用しやすい施設にするため、ユニバーサルデザインが十分に進んでいない状況です。また、屋内体育施設は災害時において、地域住民の避難所となることから、必要な機能の整備が必要となっています。</p>	
今後の方向性・目指す姿	
<p>社会教育施設・社会体育施設等の整備充実を図るため、「倉吉市教育施設等長寿命化計画(令和7年3月改訂)」及び「倉吉市公共施設等脱炭素化推進計画(令和6年5月策定)」に基づき、年次的に整備を行っていきます。また、法改正等に伴う改修も安全安心な施設を市民に提供する観点から優先的に進める必要があります。</p> <p>今後、社会教育施設・社会体育施設等の在り方や施設規模の適正化に特化した整備基本構想の検討を進める必要があります。</p> <p>適切な維持管理を進めながら、誰もが安全・安心に利用してもらえるようユニバーサルデザイン)にも配慮した環境の整備を行い、利用促進に努めます。</p>	
主要施策(個別施策・関連事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設、社会体育施設等の整備充実 <ul style="list-style-type: none"> 博物館施設の長寿命化 倉吉パークスクエアの長寿命化・脱炭素化 倉吉交流プラザの長寿命化・脱炭素化 体育施設の長寿命化・脱炭素化 	

教育目標	4 たくましく健やかな心と体づくりの推進														
基本施策	⑮人権尊重社会の担い手づくり														
所管課	・学校教育課・社会教育課														
市長部局関係課	・人権政策課・情報政策課														
現状と課題															
<p>各校において、人権教育全体計画、年間指導計画に基づいた実践を行い、児童生徒がお互いを大切にするとともに人権尊重社会の担い手となるよう努めています。</p> <p>いじめをはじめとする身近な差別や様々な人権課題の解消に向け、児童生徒が主体的に問題解決する力の育成が求められています。</p> <p>地域では、少子高齢化、人口減少が進む中、住民同士の関係の希薄化や担い手不足によるコミュニティの維持が課題となっています。学びを通じて相互に理解し認め合い、支え合う人づくり、つながりづくりを醸成する必要があります。</p>															
今後の方向性・目指す姿															
<p>倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画を基本とし、様々な人権問題を教材として学ぶことをとおして、人権尊重社会の担い手として行動する児童生徒の育成を図ります。</p> <p>各地区において同和教育をはじめとする人権に関する学習機会を提供することにより、地域の中で住民同士の認め合い、支え合う絆づくりの強化を目指します。</p>															
<table><tr><td>成果指標</td><td>現状値(令和7年度)</td><td>目標値(令和12年度)</td></tr><tr><td>「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合 (全国学力学習状況調査)</td><td>小 87.9% 中 86.1%</td><td>令和7年度以上</td></tr><tr><td>「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的回答の割合 (全国学力学習状況調査質問紙)</td><td>小 98.4% 中 95.3%</td><td>小 100% 中 100%</td></tr><tr><td>「身の回りの差別に気付いたとき、なくすために自分にできることを考え、行動した」児童生徒の割合(教育行政アンケート)</td><td>—</td><td>小 50% 中 50% 半数超の児童生徒が行動できることをめざす</td></tr></table>				成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)	「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合 (全国学力学習状況調査)	小 87.9% 中 86.1%	令和7年度以上	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的回答の割合 (全国学力学習状況調査質問紙)	小 98.4% 中 95.3%	小 100% 中 100%	「身の回りの差別に気付いたとき、なくすために自分にできることを考え、行動した」児童生徒の割合(教育行政アンケート)	—	小 50% 中 50% 半数超の児童生徒が行動できることをめざす
成果指標	現状値(令和7年度)	目標値(令和12年度)													
「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合 (全国学力学習状況調査)	小 87.9% 中 86.1%	令和7年度以上													
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的回答の割合 (全国学力学習状況調査質問紙)	小 98.4% 中 95.3%	小 100% 中 100%													
「身の回りの差別に気付いたとき、なくすために自分にできることを考え、行動した」児童生徒の割合(教育行政アンケート)	—	小 50% 中 50% 半数超の児童生徒が行動できることをめざす													
主要施策(個別施策・関連事業)															
<ul style="list-style-type: none">・倉吉市いじめ防止対策方針(※20)の見直し・改善・「学校教育における人権教育の基本方針」に基づく人権教育の推進・人権教育の題材、教材や学習過程に関する研究の推進・義務教育9年間の系統的な学習の実施・情報モラル教育の推進・人づくり、地域づくりにつながる機能強化【再掲 基本施策1-②】・同和教育をはじめとする人権に関する学習機会の提供															
<p>※20 倉吉市いじめ防止対策方針:倉吉市内の全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、さまざまな活動に取り組む中で、学びの質を高めながら心豊かに成長していくことができるよう、国、県、市町村、学校、家庭、地域社会その他の関係者の連携の下、いじめの防止など(いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。)の対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針を定めたもの。</p>															

教育目標	4 たくましく健やかな心と体づくりの推進	
基本施策	⑩たくましい体の育成	
所管課	・学校教育課・教育総務課	
市長部局関係課	－	
現状と課題		
本市児童生徒の体力・運動能力調査結果によると、全国平均値を上回る項目が近年増えてきており、全体的な体力の向上が見受けられます。課題としては、柔軟性や筋力に関わる項目の数値が低いことです。また、以前と比較して子どもたちの運動時間が減少してきています。		
今後の方向性・目指す姿		
学校教育においては、児童生徒の体力・運動能力の現状を把握し、その改善に向けた施策を展開するとともに、運動時間の減少を補うため、体育の授業において体を動かす時間を十分確保し、子どもたちが楽しみながら運動に取り組めるよう授業改善を継続して進めています。また、各学校が作成する「体力向上推進計画(※21)」に基づき、学校教育活動全体を通して体力向上に努めます。加えて、子どもたちが生涯に渡り心身の健康を維持するために必要な知識と意識を持てるよう、専門家による健康教育を引き続き進めます。		
成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
体育の授業を除く1日の運動時間が1時間以上の児童の割合 (鳥取県体力・運動能力調査)	(小5男子)48.1%【県55.1%】 (小5女子)35.2%【県30.9%】	県平均以上
健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生等から教えられたことを、普段の生活に役立てている、と回答した児童生徒の割合(全国学力学習状況調査)	小学生 83.5% 中学生 79.6%	令和6年度以上
※21 体力向上推進計画:子どもの体力・運動能力の低下傾向に対応するため、各学校で児童生徒の実態や課題を踏まえながら体力向上のための計画を策定。		
主要施策(個別施策・関連事業)		
・たくましく健やかな体づくりの推進 体力向上推進計画に基づく学校体育の充実、体育の授業の改善 小中学校への専門家の派遣による授業実施(薬物乱用防止教室、性教育) 養護教諭等による定期的な保健指導の実施 鳥取県教育委員会と連携しスクール・カウンセラーを活用した心理教育の実施 中学校部活動地域展開・地域連携の推進 小中学校各種体育大会への参加支援		

教育目標	4 たくましく健やかな心と体づくりの推進																	
基本施策	⑰学校給食の充実、食育の推進																	
所管課	・学校給食センター																	
市長部局関係課	・健康推進課																	
現状と課題																		
<p>全国的に、生活様式の変化や価値観の多様化、不規則な食事や偏った栄養摂取、朝食欠食といった食生活の乱れなど様々な社会情勢を背景に、子どもたちの食に関する問題は深刻化しています。こうした現状を踏まえ、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食生活を身に付けることができるよう、学校教育においても積極的に食育に取り組んでいくことが重要となっています。</p> <p>近年、学校給食の食べ残しが増加傾向にあり、心身の発達(栄養摂取)、食育(食への感謝、フードロス)の両面で課題となっています。</p>																		
今後の方向性・目指す姿																		
<p>豊かな心とたくましい体、望ましい食習慣などを育むため、学校給食の充実や食育の推進を図るとともに、学校給食の完食率及び朝食をとっている児童生徒の割合の向上を目指して、学校やPTAなどへの働きかけを進めます。また、「生きた教材」とも言われる食材を通じてふるさとを学び、愛着と誇りが持てる豊かな心を育むため、地産地消の推進を図ります。取り組みとして、食材は倉吉市学校給食食材供給部会と連携し、倉吉市内で収穫された野菜を優先的に学校給食に取り入れます。食物アレルギーを有する児童生徒が、給食時間を安全に、かつ楽しんで過ごすことを目標として、食物アレルギー対応を実施します。</p>																		
<table><tr><th>【成果指標】</th><th>現状値(令和6年度)</th><th>目標値(令和12年度)</th></tr><tr><td rowspan="2">○学校給食の完食率</td><td>小学校 95.7%</td><td>小学校 97.0%</td></tr><tr><td>中学校 92.3%</td><td>中学校 95.0%</td></tr><tr><td rowspan="2">○朝食をとっている児童生徒の割合</td><td>小学校 93.4%</td><td>小学校 100%</td></tr><tr><td>中学校 89.4%</td><td>中学校 100%</td></tr><tr><td>○学校給食食材の地産地消率</td><td>60%</td><td>65%以上</td></tr></table>			【成果指標】	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)	○学校給食の完食率	小学校 95.7%	小学校 97.0%	中学校 92.3%	中学校 95.0%	○朝食をとっている児童生徒の割合	小学校 93.4%	小学校 100%	中学校 89.4%	中学校 100%	○学校給食食材の地産地消率	60%	65%以上
【成果指標】	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)																
○学校給食の完食率	小学校 95.7%	小学校 97.0%																
	中学校 92.3%	中学校 95.0%																
○朝食をとっている児童生徒の割合	小学校 93.4%	小学校 100%																
	中学校 89.4%	中学校 100%																
○学校給食食材の地産地消率	60%	65%以上																
※目標値：R2～R6平均から設定																		
主要施策(個別施策・関連事業)																		
<ul style="list-style-type: none">・適切な栄養の摂取ができる学校給食の実施<ul style="list-style-type: none">栄養摂取量やバランスの取れた安全な学校給食の実施・豊かな心、望ましい食習慣を育む食育の推進<ul style="list-style-type: none">小学校1年生の親子を対象とした「親子で学ぶ食の教室」の継続実施栄養教諭・学校栄養職員による給食時間や授業時間での学年に応じた食指導(朝食指導含む)学校給食週間行事としての「チャレンジ！あなたも栄養士！」献立作品の募集、「市長・教育委員を囲んでの会食会」などの実施・給食時間を楽しく過ごすための支援<ul style="list-style-type: none">スタミナ納豆などの人気メニュー、地元食材の使用や郷土料理などのメニューを実施毎月発行の「わくわくランチ」や「くらし食育だより」などを活用した情報発信・食物アレルギー対応の実施<ul style="list-style-type: none">除去食・代替食の提供、牛乳をアレルゲンとする児童生徒への対応食物アレルギー用献立表の配布による情報提供																		

教育目標	4 たくましく健やかな心と体づくりの推進	
基本施策	⑱スポーツに親しむ環境の充実	
所管課	・社会教育課	
市長部局関係課	－	
現状と課題		
<p>スポーツのオンライン配信やデータ活用が進み、eスポーツ(※22)やスポーツツーリズム(※23)など新しい分野も成長する中、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しています。スポーツに対するニーズは、多様化、細分化、高度化しており、従前のスポーツ活動の枠組みに縛られない対応が必要となっています。</p> <p>市民意識調査による「日頃からスポーツに取り組んでいる市民の割合」は、10年前から大きな増減はなく、ほぼ横ばいとなっています。日常生活の中で手軽に始められるウォーキングなどを通じて運動習慣の定着を図ることが重要です。</p> <p>また、少子高齢化が進むことで、各種スポーツの担い手の育成、あるいは施設や機材はあっても、チームが組めないなどの課題があります。中学校部活動地域展開・地域連携の推進をはじめ、持続可能なスポーツの環境づくりが求められています。</p>		
今後の方向性・目指す姿		
<p>倉吉市スポーツ協会と連携し、市民の日頃のスポーツ活動や練習の成果を発揮する機会として市民スポーツ大会を開催し、市民のスポーツ活動の支援を行います。</p> <p>市民が様々なスポーツに触れ、親しむきっかけとなるよう、その機会の充実を図ります。その中でも、スポーツクライミングや自転車競技については、市内にある施設を活用しながら本市ならではのスポーツに親しむ機会を設けます。</p> <p>多様化するニーズへの対応や障がいの有無に関わらず、誰でも気軽に取り組めるユニバーサル・スポーツ(※24)やニュースポーツの推進を図ります。</p> <p>各地区スポーツ推進委員会を中心に「スポーツ活動参加へのきっかけづくり」を推進し、生涯スポーツの普及・運動習慣の定着を図ります。レクリエーション・スポーツの種類は多岐にわたっていることから、本市として推進すべき種目を定め、サークル活動へつなげることで、地域スポーツの振興を図ります。</p> <p>各種スポーツについて、各種研修を通じた指導者などの資質向上を図るとともに、各種スポーツ指導者・役員などの担い手の育成に取り組めます。</p> <p>子ども達が夢を描き可能性を広げ努力できる環境づくりを推進します。少子化が進むなか、生徒がやりたいと思うスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、中学校部活動の地域展開・地域連携を推進します。</p>		
成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
月に数回以上、体を動かしたりスポーツに取り組んでいる市民の割合(例)散歩・ラジオ体操・ストレッチ・筋トレなど	47.6%	61.3% 令和5年度県民の運動・スポーツに関する意識・実態調査結果の数値

主要施策(個別施策・関連事業)

- ・スポーツ活動の支援
市スポーツ協会等との連携による各種スポーツ大会の開催
- ・スポーツ活動機会の充実
- ・生涯スポーツ・地域スポーツの推進
市スポーツ推進委員によるニュースポーツ交流会等の実施
各地区スポーツ教室の実施
- ・スポーツ団体の育成・指導者の養成
市スポーツ少年団の育成、指導者の資質向上
- ・小中学校各種体育大会への参加支援
全国大会出場補助事業
- ・中学校部活動地域展開・地域連携の推進【再掲 基本施策4－⑯】

中学校部活動地域展開における受皿と指導者の確保

※22 **eスポーツ**:「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指し、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

※23 **スポーツツーリズム**:スポーツ資源と観光を融合する取り組みで、スポーツ参加や観戦を目的とした旅行とそれらを実践する仕組みや考え方で、「スポーツで人を動かす仕組みづくり」のこと。

※24 **ユニバーサル・スポーツ**: 年齢・性別・障害の有無・スポーツの得意不得意に関わらず、誰もが一緒に楽しめるようルールや用具を工夫したスポーツの総称。ボッチャやモルック、ふうせんバレーなど。



ユニバーサルスポーツフェスタ



ニュースポーツ交流会

教育目標	5 伝統と文化・芸術を尊重し、未来を創り出す人材の育成
基本施策	⑨倉吉に誇りと愛着をもつ子どもの育成
所管課	・学校教育課・社会教育課・博物館
市長部局関係課	・文化財課・企画課・地域づくり支援課・観光交流課

現状と課題

小・中学校では各地域ならではの人・もの・ことがらや、倉吉博物館や歴史民俗資料館での”本物”の資料や周辺の自然環境から学ぶ「ふるさと学習」を行い、故郷に誇りと愛着を持つ子どもの育成に努めてきました。あわせて、企業訪問や職場体験学習などを通して行う「キャリア教育」も行ってきました。また子どもたちは、子ども会活動、倉吉市小・中学生リーダー会議、中学生ボランティア、ハイスクールフォーラム、はたちのつどい実行委員会などに主体的に関わりながら、地域について学んだり、地域づくりに参画しています。

今後さらに、子どもたちが各年代において切れ目なく社会や地域から学び、関わり、つながっていく活動を支援するとともに、一人ひとりが将来に夢と希望を抱きながら自らの人生を切り拓く力を養えるよう、「くらしふるさとキャリア教育」の推進と充実を図っていく必要があります。

今後の方向性・目指す姿

「くらしふるさとキャリア教育」を推進し、倉吉の自然・地理・歴史・文化・(先)人から学び「愛着を持つ・考える・行動する・生き方を確立する」ことのできる倉吉独自の教育課程や青少年健全育成などの取り組みをします。学校や地域での様々な学びや活動を通して、子どもたちが倉吉に誇りと愛着を持ち、地域の伝統の継承や地域づくりの担い手として主体的に活躍したり、様々な場面で倉吉を支えていける人づくりを目指します。また、自分らしい生き方を考え、夢や希望がもてるよう、様々な人々との出会いの場をつくっていきます。

成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
「倉吉が好き」と答えた児童生徒の割合(教育行政アンケート)	小6 92.9% 中3 80.2%	令和6年度を上回る
「将来の夢や目標がある」と答えた児童生徒の割合(全国学力学習状況調査質問紙)	小6 82.3% 中3 70.3%	小6 87% 中3 75%
中高生1人あたりの地域活動・ボランティア活動への参加回数	—	2回/人 複数回以上
博物館を利用した小中学校や児童クラブなどの団体数及び人数	16.6団体 611人	20団体 740人 ※20%増

主要施策(個別施策・関連事業)

- ・小中学校における「くらしふるさとキャリア学習」の推進
倉吉市教育委員会および市役所各課の連携による支援
「倉吉学習」(小学校3年生:倉吉博物館・歴史民俗資料館 中学校1年生:伯耆国分寺跡、大御堂廃寺跡)の実施
地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える地域学校協働活動の推進
倉吉市小・中学生リーダー会議の実施
郷土読本「わたしたちの倉吉」(小学生向け)及び「くらし風土記」(中学生向け)の改訂と活用推進
- ・地域の創り手として活躍する次世代育成【再掲 基本施策1-①】
- ・倉吉特有の歴史、芸術、民俗、産業、自然科学などテーマ性のある展示の展開

【再掲 基本施策1-③】

「鳥取県野口1号墳出土須恵器」ほか国指定重要文化財を含む考古資料の展示
「前田寛治」(洋画)、「菅楯彦」(日本画)、「大坂弘道」(木工芸)ほか美術作品の展示
「千歯扱き」「太一車」など農機具や「倉吉緋」など明治から大正の民俗・産業資料の展示
「倉吉自然科学研究会」との共同企画による「夏休み自然科学展」の開催
「倉吉市立図書館」、「倉吉淀屋」など周辺施設と連携した館外展示活動の展開
「鳥取県立博物館」、「鳥取県立公文書館」などと共催による企画展の開催
倉吉ゆかりの作家の顕彰とまちに文化の潤いをもたらす全国に誇れる美術賞の開催
「前田寛治大賞展」、「菅楯彦大賞展」、「倉吉・緑の彫刻賞」の継続
「人間国宝 大坂弘道」の顕彰
郷土作家の顕彰
市民が地域を理解し、市民の学習意欲に応えられる教育普及活動の実施
倉吉特有の歴史、芸術、民俗、産業、自然をテーマにした「倉吉博物館講座」の開催
「自然ウォッチング」など自然観察会の開催
学校や地域への講師派遣並びに体験学習活動や出前授業などの実施



夏休み子ども体験教室



小学校3年生「むかしの道具」倉吉学習の様子

教育目標	5 伝統と文化・芸術を尊重し、未来を創り出す人材の育成
基本施策	⑳文化財の保存、活用、伝承
所管課	・博物館、社会教育課、学校教育課、図書館
市長部局関係課	・文化財課
現状と課題	
<p>教育委員会が所管していた文化財保護行政が令和6年度に市長部局(経済観光部文化財課)へ移管されたため、これまで博物館が取り組んできた指定文化財(国・県・市指定)を含む収蔵品の適切な保護管理及び調査、展示公開、普及活動等を引き続き実施しています。また、文化財啓発等については学校教育や社会教育との連携が求められ、特に「ふるさとキャリア教育」(※7)の観点から、小中学校の児童生徒が本物に触れることの出来る学習機会を創出する必要があります。</p>	
今後の方向性・目指す姿	
<p>文化財に触れる機会の創出と啓発のため、経済観光部文化財課と連携し、引き続き博物館や歴史民俗資料館における文化財の保存・展示・普及活動をはじめ、学校教育・社会教育・図書館との協力関係をさらに強化していきます。特に、学校教育課と連携して小学3年生と中学1年生の児童生徒が歴史民俗資料館や伯耆国分寺跡・大御堂廃寺跡で見つかった出土品や遺跡の現地に触れる学習機会を確保して行きます。社会教育課、地域づくり支援課と協働して成人への文化財啓発講座等を地区コミュニティセンターを活用し進めます。また、図書館展示コーナーにおいて図書館資料を活用し文化財に関する情報を提供します。</p>	
主要施策(個別施策・関連事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と経済観光部文化財課の連携による文化財に触れる機会の創出と啓発 <ul style="list-style-type: none"> 博物館及び歴史民俗資料館における文化財の保存・展示 社会教育関係機関における文化財に関する教育普及活動の実施 小中学校における埋蔵文化財や地域の指定文化財に関する出前講座等学習機会の確保 「わたしたちの倉吉」、「くらよし風土記」の積極的な活用による歴史教育の推進 図書館における文化財に関する刊行物の収集及び貸し出し・閲覧サービスの提供 ・小中学校における「くらよしふるさとキャリア学習」の推進 【一部再掲 基本施策5-⑨】 <ul style="list-style-type: none"> 倉吉市教育委員会および市役所各課の連携による支援 「倉吉学習」(小学校3年生:倉吉博物館・歴史民俗資料館 中学校1年生:伯耆国分寺跡、大御堂廃寺跡)の実施 郷土読本「わたしたちの倉吉」(小学生向け)及び「くらよし風土記」(中学生向け)の改訂と活用推進 	

教育目標	1 社会全体が協働し学び続ける環境づくり							
基本施策	③「感動」を生み「知る喜び」を感じる博物館【再掲】							
所管課	・博物館							
市長部局関係課	・文化財課・観光交流課							
現状と課題								
<p>倉吉博物館は、自然、歴史、芸術、民俗、産業など倉吉特有の文化資源を活用して、市民がいつでも利用できる「知の拠点」となることを目指し活動しています。そのため、これまで開館以来50年にわたって蓄積してきた博物館資料を基に展示活動や普及啓発活動を精力的に行ってきました。良質ではない文化資源を活用してオリジナルな活動を推進してきましたが、一方で、広報媒体等を使っての情報発信力が弱く、十分に市民に行き届いていません。</p>								
今後の方向性・目指す姿								
<p>博物館での作品鑑賞や学びを通じて驚きや感動、新たな発見による知る喜びなど市民の「知的好奇心」を満たすことのできる施設を目指すとともに新たな価値を創造できる人材の育成にも努めます。子どもから高齢者、障がい者まで誰一人残さず、自然や先人が遺してきた本物に触れることで豊かな心をもちウェルビーイング(※1)の向上を図ります。多くの市民がふるさと倉吉の遺産や偉人を知る機会を創り出し、郷土へ誇りと愛着を醸成していきます。令和7年開館の県立美術館とは、企画展の共催化やイベントの共同開催を企画し、積極的に連携を図っていきます。</p> <p>また、情報発信力の強化にも力を入れ、地元メディア、情報誌、市報、博物館HP等を使って発信に努めるとともに、友の会組織(博物館協会)の口コミなど有効な発信源を機能強化させていきます。</p>								
<table><tr><td>成果指標</td><td>現状値(令和6年度)</td><td>目標値(令和12年度)</td></tr><tr><td>年間利用者数 (特別展・企画展以外)</td><td>7,844人</td><td>10,000人 約25%増</td></tr></table>			成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)	年間利用者数 (特別展・企画展以外)	7,844人	10,000人 約25%増
成果指標	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)						
年間利用者数 (特別展・企画展以外)	7,844人	10,000人 約25%増						
主要施策(個別施策・関連事業)								
<ul style="list-style-type: none">・倉吉特有の自然、歴史、芸術、民俗、産業などを核としてテーマ性のある展示の展開<ul style="list-style-type: none">「鳥取県野口1号墳出土須恵器」ほか国指定重要文化財を含む考古資料の展示「前田寛治」(洋画)、「菅橋彦」(日本画)、「大坂弘道」(木工芸)ほか美術作品の展示全国シェアを誇る「千歯扱き」や緻密な絵絣で有名な「倉吉絣」など産業資料の展示倉吉自然科学研究会との共同企画による「夏休み自然科学展」の開催「倉吉市立図書館」、「倉吉淀屋」など周辺施設と連携した館外展示活動の展開「鳥取県立博物館」、「鳥取県立公文書館」などと共催による企画展の開催学芸員の調査研究に基づく企画展の開催・市展・創作文華展の開催など市民の創作活動や展示発表への支援<ul style="list-style-type: none">「倉吉市美術展覧会」、「倉吉市創作文華展」の開催展示発表のための貸館スペース並びに学術研究活動のための研修室の貸出・倉吉ゆかりの作家の顕彰とまちに文化の潤いをもたらす全国に誇れる美術賞の開催<ul style="list-style-type: none">「前田寛治大賞展」「菅橋彦大賞展」「倉吉：緑の彫刻賞」の継続人間国宝 大坂弘道」の顕彰、郷土作家の顕彰・市民が地域を理解し、市民の学習意欲に応えられる教育普及活動の実施								

倉吉特有の自然、歴史、芸術、産業などをテーマにした「倉吉博物館講座」の開催

「自然ウォッチング」など自然観察会の開催

・博物館資料の保全と活用

博物館資料のデジタルアーカイブ化の促進

市報、ホームページ、地元新聞紙面他、あらゆる媒体を通じた情報発信

展示や教育普及活動へのICTの活用の推進

・「鳥取県立美術館」との各種事業の有機的な連携

「鳥取県立美術館」との各種事業の共催

「鳥取県ミュージアム・ネットワーク」との連携

「鳥取県アート・ミュージアム連携協議会」との共同企画展等開催



人間国宝 大坂弘道《紫檀木画箱》

＊正倉院宝物模造品



前田寛治大賞展(東京高島屋会場)



土天神 資料の特性に合わせた館外展示



打吹山の自然を活用した体験学習